

創設当時の水道管（陶管）

曾屋水道の遺構

～秦野水道の歴史（水道管の歴史）～

曾屋水道では鉄管と比べて安価な陶管が使われました。

陶管は、愛知県常滑市の会社で製造され、1個当たりの長さは約61cm、重さは約25kg、当時の価格で16銭との記録が残っています。

陶管と陶管を繋ぐ接手部分には、白臘、松脂、セメントなどの接着剤が使われました。

関東大震災により陶管は壊滅的な被害を受け、その復旧には鉄管が使用されることになったため、その役割を終えることになりました。



創設当時の常滑焼の陶管